

リスクコミュニケーションについて

順天堂大学医学部公衆衛生学教室
堀口逸子

食品の安全を取り巻く動向

●環境の変化

飢餓から飽食の時代へ(先進国) 大量生産・大量流通
貿易の国際化 長距離輸送の普遍化 海外旅行の一般化

など

●国際的な考え方

リスク分析

事故の対応より予防に重点、安全性評価と管理の機能的分離、利害関係者間の情報や意見交換の推進

フード・チェーンアプローチ

生産から消費に至るフード・チェーン全段階で安全を確保することが重要

世界的な流れ

FAO Expert Consultation
on FOOD Safety: Science and Ethics
Rome, 3–5 September 2002

Risk Analysis

Risk Assessment

Risk Management

Risk Communication

The goal of communication

Communication is critical in establishing a better understanding of scientific processes involved in risk analysis and facilitating better interactions among all interested parties.

食品の安全確保の仕組み(リスク分析)

リスク分析(リスクアナリシス)

国民の健康の保護を目的として、国民やある集団が危害にさらされる可能性がある場合、事故の後始末ではなく、可能な範囲で事故を未然に防ぎ、リスクを最小限にするためのプロセス

リスクコミュニケーション

- ・食品の安全に関する情報の共有と相互の意見交換
- ・消費者等関係者の意見の施策への反映

リスク管理

リスク評価

- ・リスク評価の実施
健康に悪影響を及ぼすおそれのある物質が食品中に含まれている場合に、どのくらいの確率でどの程度の悪影響があるのか評価

食品安全委員会 食品安全基本法

- ・食品中の含有量について基準を設定
- ・表示
- ・基準や表示が守られているかの監視
など

厚生労働省
食品衛生法等

- ・農薬の使用基準の設定
- ・えさや肥料中の含有量について基準を設定
- ・動物用医薬品等の規制
- ・表示

など

農林水産省
農薬取締法
飼料安全法 等

「リスク」とは

人間の生命や経済活動にとって、望ましくない事象の発生の不確実さの程度およびその結果の大きさの程度

リスク学事典

リスク認知

- ・ 恐ろしさ
- ・ 未知性
- ・ 災害規模
- ・ voluntary risks
- ・ involuntary risks

絶対に(完全に)安全な食品はあるか？

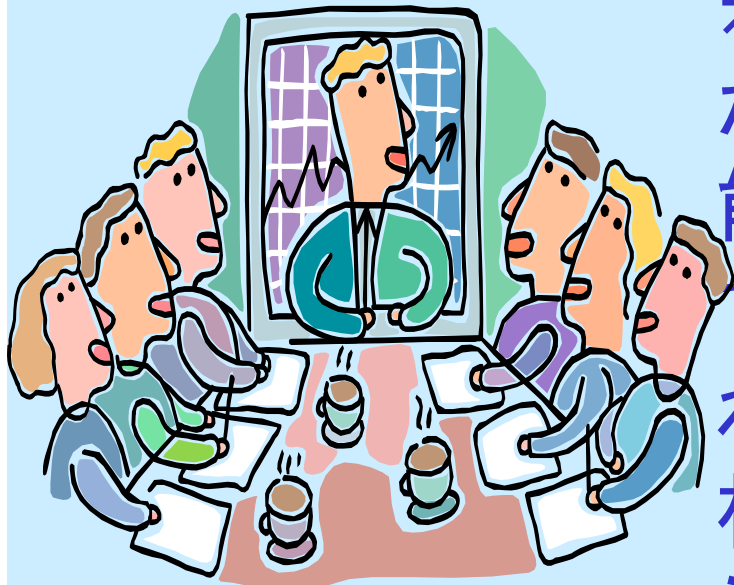
Many people take the term ‘**safe food**’ to mean food with **zero risk**. But **zero risk** is often **unattainable (実現不可能)**. In practice, ‘**safe food**’ usually means food that is ‘**safe enough**.’

The application of risk communication to food standards and safety matters
Report of Joint FAO/WHO Expert Consultation Rome, 2-6 February 1998

ある物質が健康に悪影響を及ぼすかどうかはその物質の有害性と摂取量で決まる。

リスクコミュニケーションとは

リスクに関係する人々の間で、(食品の)リスクに関する情報や意見を相互に交換すること。



※ 悪影響の確率やその程度がどのくらいならば受け入れ可能で、受け入れ可能な状態までリスクを下げるためにどうすれば良いかについて、関係者相互に理解を深め、共に考えようというもの。

リスクコミュニケーションへの道

- ・ 同じ時代、同じ社会に暮らしていても「異文化」を背負う人びとがいることを理解する
- ・ まず、同じテーブルについて、心を開いて話を聴く
- ・ 押し付けないように自分の立場を説明する
- ・ 立場と考え方に違いがあることを認める
- ・ その上で、調整可能な部分があり、調整可能であることを皆が信じて、妥当な方策を探る
- ・ 一度であきらめず、これを何度か繰り返す